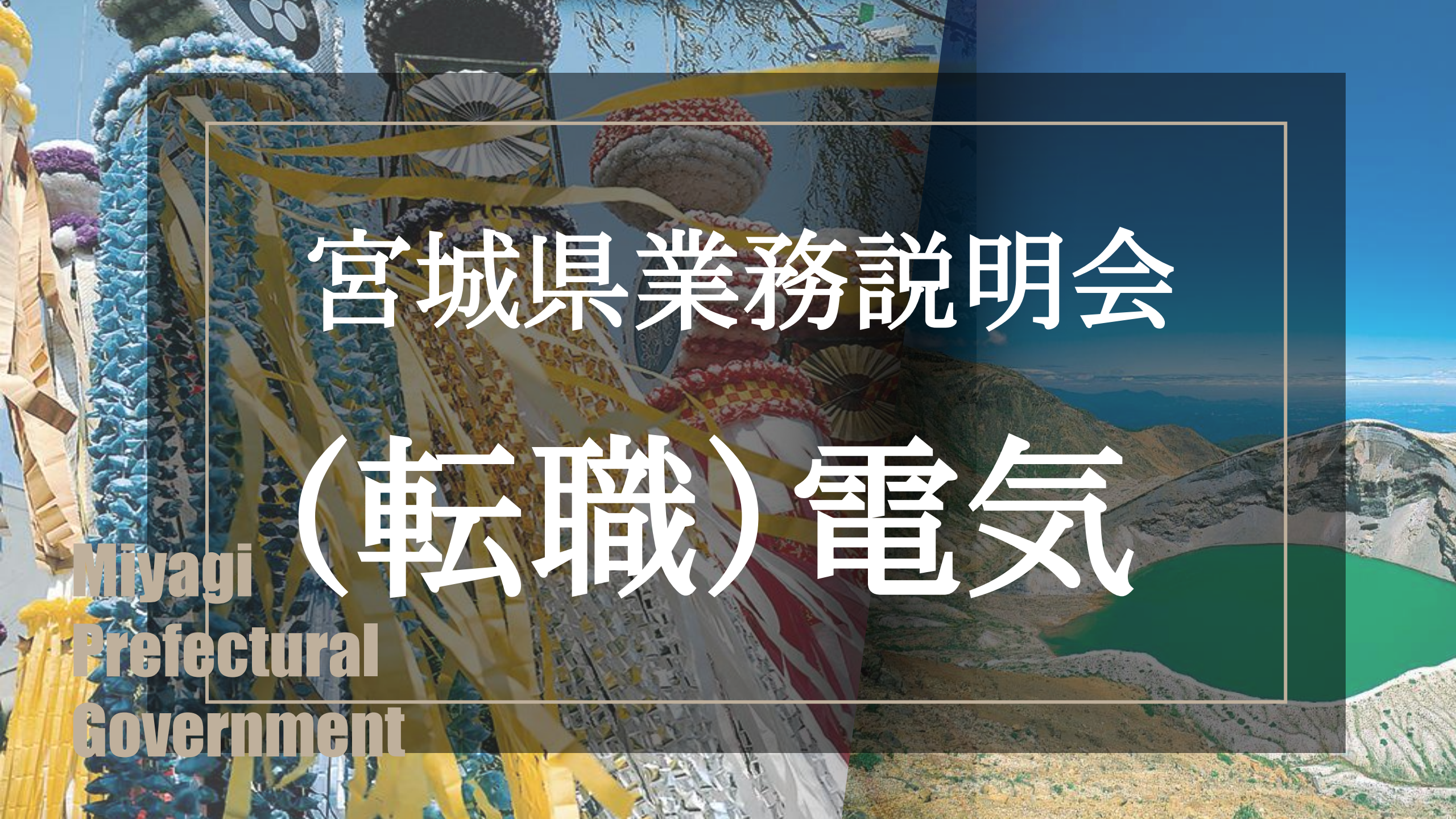




宮城県業務説明会 (転職)電気

Miyagi
Prefectural
Government

電気職の仕事

県職員（電気職）の主な業務

- 上・下水道、工業用水道、ダム、学校及び庁舎などの県有施設の電気設備の整備や維持・管理
- 防災システムの構築・運用等（宮城県総合防災情報システム等）

県職員（電気職）の主な配属先

- 本庁各課(営繕課、設備課、管財課、防災推進課 など)
- 地方機関(ダム総合事務所、広域水道事務所、下水道事務所 など)

自己紹介

山形県鶴岡市出身

H24.3月 **県外高等専門学校卒業（機械工学科）**

H24.4月～
R2.3月 **民間企業勤務（県外・国内電機メーカー）**

公共インフラ、産業系工場等の電気・計装システムに関する機器の更新・保守点検業務

R2.4月～ **土木部 仙台地方ダム総合事務所 管理第一班**

県管理ダム施設の電気設備、ダム監視設備に係る維持管理・更新

R5.4～ **企業局 仙南・仙塩広域水道事務所 施設管理班**

浄水・送水施設（電気・機械）の維持管理に関する業務

志望動機

なぜ公務員だった？

インフラ系の更新・点検を通じて、生活基盤の重要性を学び、施設の整備や維持管理などの方針を決定していくことに興味があり、公務員を選択しました。

なんで宮城県庁を選んだ？

日本全国を出張する中で、東北地方の気候が自分に適しており、東北代表県として県外に向けて、新しい目線で魅力を発信出来ればと考えたため、選びました。

担当した仕事

仙台地方ダム総合事務所 管理第一班

●県管理ダムのうち仙台近郊(仙台市,大和町,名取市,利府町)にある、6つのダムの維持管理および修繕・更新工事を行いました。

担当業務

- ダム監視システム等の維持管理
- ダム監視システム、多重無線、電気設備等の更新および修繕工事監督、設計業務



電気設備点検立会



ダム監視システム維持管理

担当した仕事

仙南・仙塩広域水道事務所 施設管理班

- ・県内17市町へ水道水を送水する施設の維持管理および、宮城県上工下水一体官民連携運営事業において、運営事業者のモニタリング業務を行っております。

担当業務

- ・送水管路電気防食施設の維持管理
- ・小水力発電施設建設工事の監督
- ・運営事業者の改築、更新工事、維持管理のモニタリング業務(維持管理についての助言等)



施設年次点検立会



小水力発電施設建設設計・施工

大変だったこと

仙台地方ダム総合事務所

- 機能を知るためには、図面、資料を見た上で実際に現物を管理・操作を試みる必要があり、どのような状態になるか理解できるようになるまで大変でした。
- 令和4年3月に発生した地震により道路や周辺設備が被災し、様々な対応・調整が必要となったことが大変でした。

仙南・仙塩広域水道事務所

- 送水管路が白石市から松島町まで総管路延長が約210kmあり、管路や各市町の受水池の場所を覚える事が大変でした。
- 運営事業者が行っている浄水場管理と改築工事の状況を確認し、進捗状況、改築状況の確認をすることが大変でした。

やりがい、心掛けていること

やりがい

(仙台地方ダム総合事務所)

●ダム管理は、多様な状況や規則を想定し、長期的な視点が求められる奥深い分野です。複雑な条件をクリアし、未来を見据えて最適なシステムを形作っていく過程に大きなやりがいを感じます。

(仙南・仙塩広域水道事務所)

●安全・安心な飲み水を途切れることなく供給し続ける仕組みを深く理解し、施設の重要性を実感した時、人々の当たり前の日常を根底から支えるこの仕事に、大きなやりがいを感じます。

心掛けている事

- 自ら調べ「何が不明か」を明確にしてから質問する様に心掛けています。
- 得た知見は自身だけに留めず、後進や職場内の人へ広く伝えることで、担当者として、多角的な視点を持ち続けることを常に心掛けています。

1日のスケジュール

8:30
出勤

8:40
夜勤運転
引継ぎ

9:00
事務作業
(工事書類確認)

12:00
昼休み

13:00
打合わせ等
現地確認

15:00
打合せ等
記録作成

17:00
日勤運転
引継ぎ

17:15
退勤

働き方・休み方

働き方

- 忙しい時期もありますが、メリハリをつけて自分の時間も大事にしています。
- テレワーク制度や時差出勤制度がとても充実しており、自身の環境に応じて柔軟に働くことができます！

休み方

- 年20日間の年次有給休暇や、5日間の夏季休暇等があります。年次有給休暇は時間単位でも取ることができ、細かな用事でも取得できるのがありがたいです。

入庁前のイメージとギャップ

入庁前のイメージ

- システムが古く、紙の書類が多い？
- 学生のように授業を受ける感覚でいれば、専門的な知識が身につく？

ギャップ

- 電子システムがたくさん活用されており、紙の割合が大幅に減っており、面倒が少なくなっている！
- 生成AIを導入し、業務に取り入れ、業務効率化を図っている！
- 業務委託等で外部の力を借りることも多いですが、教えてくれる先輩職員達にリスペクトを持って接し、受け身では知識が身につかないので、興味をもって業務行うことが重要！

前職とココが違った！ 前職の経験が役に立った！



目の前の『作業の完遂』から、未来を見据えた『計画の立案』へ

前職の現場では、会社としてチームで効率よく作業を完遂する「実行」を重視していました。一方、県職員の現在は、自ら先を見据えた方針や計画を立案し、その実行方法から考える「企画」へと視点が変化しました。



「現場の知見を活かした提案力」と「技術の橋渡し」

設備の安定稼働に向けた的確な状況把握や、運用実績に基づく次期更新時の最適化提案など、現場の知見を活かした貢献が出来ます。図面から設計意図を読み解く技術も備え、確実な施設管理とスムーズな技術継承に役立てています。

職場の雰囲気

- 近年、県庁内の各課においては盛んに働き方改革の一環として、「オフィス改革」が行われており、綺麗で過ごしやすい快適な執務室が増えています！
- 同僚・上司を含めて、相談をしやすく、自分の成長に繋がっています。



働いて感じる宮城県職員の魅力

- 電気設備職員として働く最大の魅力は、初めは設備の仕組みを学ぶところからスタートし、経験を重ねる中で、ダムや水道施設といったインフラの「未来の運用基盤」を企画できる技術者へと成長していける点です。専門知識や設備の仕組みは、実務を通して少しずつ身につけていけるため、心配はいりません。
- 目の前の設備維持にとどまらず、数十年先の宮城の暮らしを見据え、スケールの大きな仕事に挑戦しながら着実に成長していける、非常に奥深い環境です。
- 福利厚生が充実しており、ライフステージが進んでも安心して働くことが可能！

私の公務員試験対策

筆記試験

- ホームページに掲載されている採用試験の例題・過去の出題を解く、電気工事士試験のような実務に関わる公的資格の試験を受験し、知識を習得しました。
- 世界情勢や県政情報を収集し、「今の自分ならどうするか、それはどんな理由であるか」相手に自分の思いが伝わるように整理しました。

面接試験

- 県のパンフレットを活用して業務概要を理解し、将来自分が挑戦してみたい仕事を具体的に思い描いておくことが重要になります。
- 面接は評価の場であると同時に、未来の同僚を迎える場でもあります。飾る必要はありませんので、熱意を等身大で伝えてください。

みなさんへのメッセージ

宮城県の電気職は、安全・安心な県民生活を根底から支える非常に重要な仕事です。

現場での打合せ等を通して知見を深め、ゆくゆくは全体を見渡す計画立案へとステップアップできます。

経験が浅くても、先輩・上長のサポートのもとで、着実に成長できる環境ですので大歓迎です。

私たちと共に、宮城の未来の基盤を描いていきましょう。